

第4回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ 結果報告

○下水道場とは

- 下水道関係組織においても行政改革に伴う職員採用の抑制や経験豊富な職員の退職等により、技術やノウハウの継承が問題となっている。
- 一方で、事業量の減少や民間への業務委託の増加により、若手職員は自らの組織の業務だけでは十分な知識、情報を得ることが難しい状況となっている。
- このような状況に鑑み、平成24年9月、国土交通省によって、下水道事業の持続的・安定的な運営や一層の発展のため、若手職員同士が交流し、お互いの悩みや検討課題を相互に相談する場として「下水道場」が設立された。
- 本県では、平成28年9月に「やるばい長崎下水道場」を設立し、市町若手職員同士のネットワーク形成・スキルアップを図るとともに県内の下水道事業のさらなる発展を目指して取り組んでいる。

第4回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ を以下のとおり開催しました。

- 日時：令和元年12月20日（金） 13：30～17：00
- 場所：長崎市西部下水処理場
- 対象：長崎県内下水道若手（概ね40歳以下）職員
- 参加：長崎県内10市町 40名
- 名称：やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～

○会次第

1. 講義

- 1) 「長崎市の主要な下水道事業の取り組みについて」

長崎市 事業管理課 係長 宮崎 哲也

- 2) 「長崎県における広域化・共同化について他」

長崎県 水環境対策課 主任技師 峯越 友貴

2. 現地研修

- 1) 「遠方監視システム（ICT）について」

- 2) 「マンホールトイレ設置訓練」

1. 講義

1) 「長崎市の主要な下水道事業の取り組みについて」

長崎市 事業管理課 係長 宮崎 哲也

全国版下水道場の第1期生でもある宮崎係長から、長崎市が重点的に取り組んでいる、下水道施設統合整備事業や、長崎駅周辺の浸水対策事業、長崎市を核とした広域化・共同化の検討について講義していただきました。他にも、自身が下水道場の卒業生であることから、当時の体験談を交えながらアドバイスしていただきました。

他自治体が実施している下水道事業や先輩職員の話聞く機会は普段あまりありませんので、とても参考になりました。



2) 「長崎県における広域化・共同化について他」

長崎県 水環境対策課 主任技師 峯越 友貴

令和4年度までに策定する、広域化・共同化計画について、必要性や問題点について講義していただきました。広域化・共同化について市町担当で意見交換を行う場はありますが、今まで、若手職員が参加する機会はあまりありませんでした。しかし、峯越主任から、広域化・共同化計画策定の糸口になるのは、下水道の未来を担う若手職員なので、柔軟な意見・アイデアを積極的に出してほしいという話があり、改めて広域化・共同化の必要性等について考える機会となりました。



2. 現地研修

1) 「遠方監視システム（ICT）について」

長崎市が平成 22 年度から実施している、ICT を活用した広域監視の効率化について説明をしていただきました。ICT を活用した広域監視には、規模の大きい長崎市内の 4 つの処理場（中部下水処理場、南部下水処理場、三重下水処理場、東部下水処理場）を夜間無人化で遠方監視が出来る下水処理場統合監視システムと、規模の小さい浄化センターやマンホールポンプをインターネット回線で運転監視ができる小規模施設監視システムがあり、いずれも維持管理コストの削減につながっています。

本県では、多くの下水道施設が改築時期を迎えて今後も改築費用が増大していくことから、維持管理費を削減することは喫緊の課題となっています。コスト削減実績のある現物を直接確認し、今後の各自治体の維持管理方針を考える良いきっかけとなりました。



2) 「マンホールトイレ設置訓練」

災害時における避難所のトイレの確保・管理は、ライフラインと同様に被災者の命を支えるための社会基盤サービスの 1 つであるため、避難所を開設する市町において適切で迅速な対応が求められています。そこで、被災時を想定して長崎市が管理しているマンホールトイレの設置訓練を 7 班に分かれて行いました。取扱説明書をもとに各班 30 分以内での設置完了を目標に、それぞれ協力しながら取り組んだところ、全ての班が目標を達成することができました。設置経験が無い職員がほとんどであったため、スムーズに作業が進みませんでした。各班協力しながら無事に設置することができました。災害が起きた際は、私たちの迅速な対応が求められますので、今回の経験を活かしたいと思います。



最後に....

第4回長崎下水道場では、近年多発する自然災害に対して、市町職員が避難所等で迅速に対応が出来るよう、マンホールトイレ設置訓練を行いました。

他にも、下水道事業に携わっている先輩職員から若手職員に講義をしていただきました。今後本県の下水道事業を発展させていくために、どのように取り組む必要があるのか改めて考えさせられました。また、若手職員が抱えている悩みを打破するための、アドバイスもしていただきました。

開催後アンケートでは、「県内自治体の下水道事業の代表的な取り組みを知りたい」「グループワークで若手職員と意見を共有したい」など、様々な要望がありました。今後さらに、若手職員のスキルアップ、横のつながりの強化をできるように内容の見直しをして、さらに充実した下水道場にしていきます。

職場は違いますが、長崎県の下水道事業の発展と生活環境の向上のために、今後の下水道事業を担う若手職員一丸となって頑張りましょう！！

